

2001年7月5日

県民意識調査 参院選 1 カ月前 報告書骨子

(2001年6月28～30日調査)

調査の設計	1
結果の概要	4
単純集計	7



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆ 調査の目的

小泉内閣は今年4月下旬の発足当初、支持率8割台の空前の高率を確保し、その勢いを維持したまま参院選を迎えようとしている。「改革」を前面に押し立てた政策と発想は、幅広く国民を巻き込んだ“うねり”となり、既成の政治・行政・経済界の枠組みを揺さぶる様相を呈している。

その半面、具体的な改革には手が届かず、なにより「痛みを伴う改革」の実相は、まだ国民の目には見えにくい。対米外交はほぼ軌道にのったものの、小泉首相個人の靖国神社公式参拝の発言や教科書問題をめぐるアジア諸国の反応、振幅の激しい田中外相の言動による混迷など、外交面の不安定要素も消えない。他方では、対抗策を探しあぐねる野党に対する苛立ちがくすぶる。

経済が再び暗転の気配を濃くする一方、政治を取り巻くある種の“熱狂”のなかで、県民各層はどのように現状を見つめ、これからの期待を抱いているのか。「参院選1カ月前」のタイミングで世論動向を探る。

◆ 調査の設計

調査対象

長野県内に住む20歳以上の1000人（男性502人 女性498人）

抽出方法

東北中南の4地域に層化し“県内有権者の縮図”となるように、有権者比率などを基にした一定のルールで、県下120全市町村の中から対象となる52市町村を抽出。さらに、市町村ごとのサンプル数を性別と年代別（県平均比率）に設定する。

調査方法

設定した市町村別のサンプル数にしたがい、N T T電話帳をもとに、無作為抽出した世帯から1人を回答者とし、最終的に設定どおりのサンプル数を満たすまでコール（抽出）する。

調査期間 2001年6月28～30日

調査地点 17市22町13村の計52市町村

◆ 回収結果

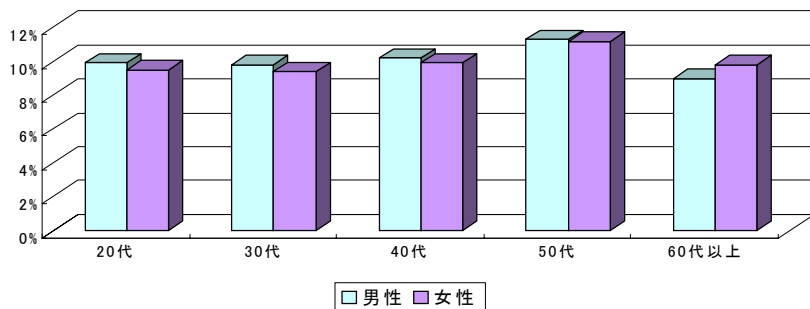
各市町村とも年代・性の人数に達するまで抽出を繰り返したので、有効回収数（率）は、対象者数と同じ1000人＝男性502人・女性498人（100%）。

◆ サンプルの内訳

総サンプル(回答)数=1000

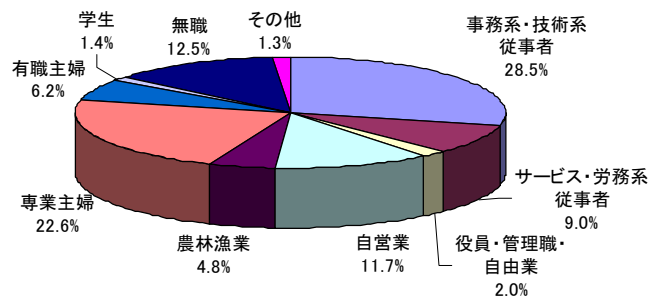
【性別と年代別】

	全体	20代	30代	40代	50代	60代以上
男性	502 50.2%	99 9.9%	98 9.8%	102 10.2%	113 11.3%	90 9.0%
女性	498 49.8%	95 9.5%	94 9.4%	99 9.9%	112 11.2%	98 9.8%



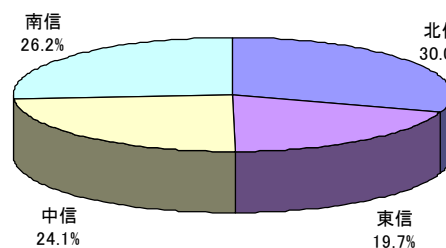
【職業別】

事務系・技術系従事者	285	28.5%
サービス・労務系従事者	90	9.0%
役員・管理職・自由業	20	2.0%
自営業	117	11.7%
農林漁業	48	4.8%
専業主婦	226	22.6%
有職主婦	62	6.2%
学生	14	1.4%
無職	125	12.5%
その他	13	1.3%



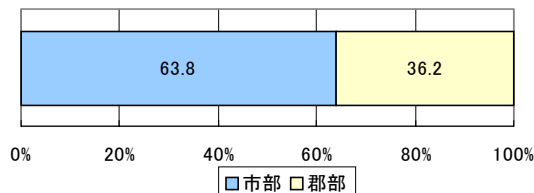
【地域別】

北信	300	30.0%
東信	197	19.7%
中信	241	24.1%
南信	262	26.2%



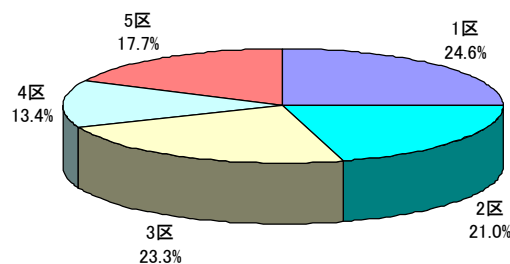
【市郡別】

市部	638	63.8%
郡部	362	36.2%



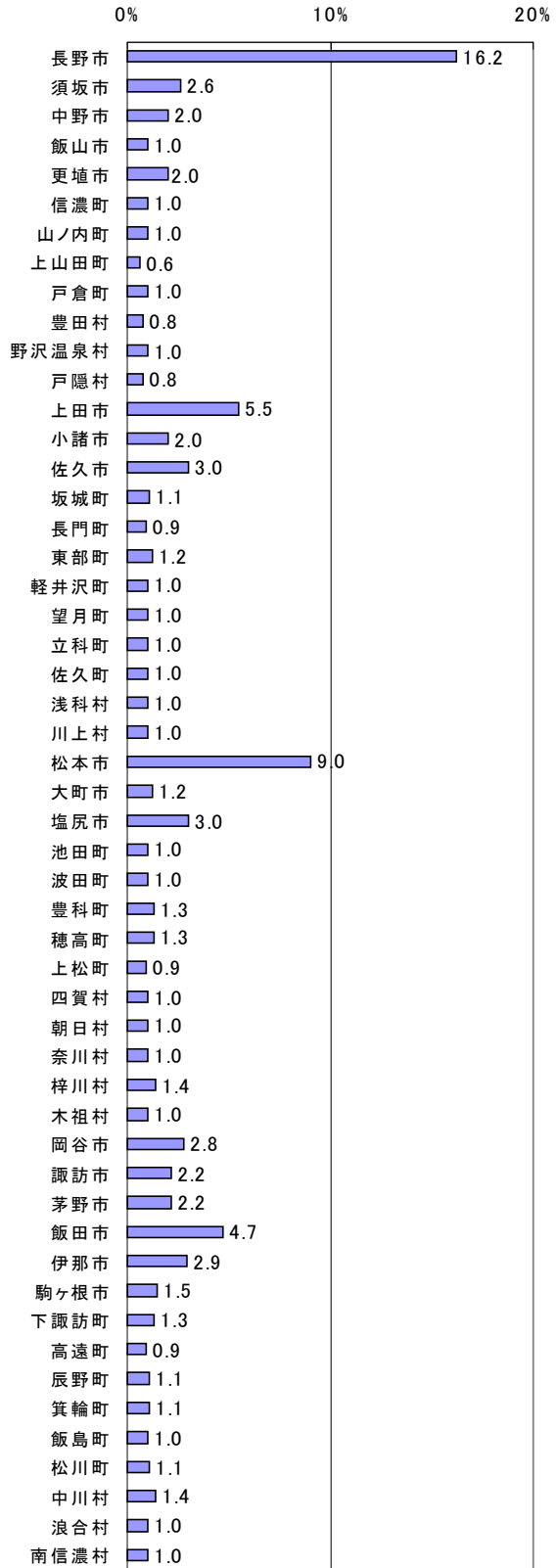
【選挙区別】

1区	246	24.6%
2区	210	21.0%
3区	233	23.3%
4区	134	13.4%
5区	177	17.7%



【市町村別】

長野市	162	16.2%
須坂市	26	2.6%
中野市	20	2.0%
飯山市	10	1.0%
更埴市	20	2.0%
信濃町	10	1.0%
山ノ内町	10	1.0%
上山田町	6	0.6%
戸倉町	10	1.0%
豊田村	8	0.8%
野沢温泉村	10	1.0%
戸隠村	8	0.8%
上田市	55	5.5%
小諸市	20	2.0%
佐久市	30	3.0%
坂城町	11	1.1%
長門町	9	0.9%
東部町	12	1.2%
軽井沢町	10	1.0%
望月町	10	1.0%
立科町	10	1.0%
佐久町	10	1.0%
浅科村	10	1.0%
川上村	10	1.0%
松本市	90	9.0%
大町市	12	1.2%
塩尻市	30	3.0%
池田町	10	1.0%
波田町	10	1.0%
豊科町	13	1.3%
穂高町	13	1.3%
上松町	9	0.9%
四賀村	10	1.0%
朝日村	10	1.0%
奈川村	10	1.0%
梓川村	14	1.4%
木祖村	10	1.0%
岡谷市	28	2.8%
諏訪市	22	2.2%
茅野市	22	2.2%
飯田市	47	4.7%
伊那市	29	2.9%
駒ヶ根市	15	1.5%
下諏訪町	13	1.3%
高遠町	9	0.9%
辰野町	11	1.1%
箕輪町	11	1.1%
飯島町	10	1.0%
松川町	11	1.1%
中川村	14	1.4%
浪合村	10	1.0%
南信濃村	10	1.0%



Ⅱ 結果の概要

小泉内閣の支持率

支持率は全体として8割を超えたが、4月の内閣発足時よりは、わずかに目減りした。こうした高支持率に連動するかたちで、国の政治に対する期待も、ほぼ同率の8割台を示した。内閣支持では、男性75.1% - 女性87.8%の落差が著しく、不支持は男性が17.5%と高い。年代層では大きな違いはないが、20代の85.6%が最も高めだ。職業層では、全般的に主婦層が高めなのに対して、管理職層では70.0%と最も低くなっているのが注目される。

政党支持層でみると、自民党では支持95.3% - 不支持3.4%、民主党は73.2% - 20.3%。支持政党なし層では80.6% - 11.4%と、小泉首相の“食い込み”ぶりがはっきり現われた。

小泉内閣の評価できる点・評価できない点

評価できる点は「前例にとらわれない姿勢」が最も多く、二番手は「“脱派閥”の姿勢」。そして「政治を活性化させた」「改革をめざす中身」が続く。小泉内閣を支持する人は「前例...」の評価で、支持しない人に比べて高めになっている。

評価できない点では「政策実行の遅れ」がトップ。「“国民の痛み”を伴う政策」が続き、3番目には「外務大臣ら閣僚の言動」が入った。小泉内閣を支持しない人では、靖国公式参拝や改憲などをめぐる「右寄り・タカ派的な姿勢」が支持する人に比べてぐんと高い。

小泉内閣の姿勢や政策見直しの評価

A 靖国神社公式参拝 賛成 63.0% - 反対 20.3%。男女間の違いはみられないものの、主婦層の賛成では、専業57.1% - 有職69.4%とかなりの開きが生じた。また、年代層でも60代以上（以下「60代」と略記）の賛成が7割を超えたのに対して、30~40代では6割に達しない。無職層は賛成59.2% - 反対28.8%と、他の職業層に比べて特異な反応だ。政党支持層では自民党が8割に迫るが、連立与党の公明党は反対が5割近くの優勢といった“ねじれ”も。民主党は平均値をやや下回る。

B 地方交付税の配分見直し 賛成 69.2% - 反対 15.8%。賛成で市部 72.9% - 郡部 62.7%の温度差がみられ、政党支持層では賛成が7割台で自民、民主両党が並んだが、公明党が8割に突出した。内閣支持の人の賛成が7割を超えたのとは対照的に、不支持では6割に届かない。

C 郵政3事業民営化などへの見直し 賛成 67.5% - 反対 19.2%。男性の賛成が7割台に乗ったが、女性は10ポイントほど下回る。40~50代の賛成が高めだが、60代では6割を割った。管理職層の賛成が8割半ばの高率なのに比べて主婦層、農林業などは6割台というコントラストがみられる。政党支持層では自民、民主の賛成が平均値よりも高く、公明、共産、社民は平均値を下回り、特に社民の反対は3割半ばを越す。

D 道路特定財源の配分などの見直し 賛成 74.0% - 反対 12.3%。反対では男性が1割半ばと多めで、女性はその半分程度。管理職層の賛成が8割半ばにのぼる半面で、農林業では7割の低率だった。

政党支持

自民党が31.9%と、2位民主党15.3%に倍以上の大差をつけた。支持政党なし層が36.0%（4月調査では49.6%）に急減した分の多くを自民党が吸収し“小泉人気”の追い風をまとめて取り込んだ感じだ。4月の内閣新発足当時に比べて7ポイントの伸長ぶりで、衆院選5つの県下全選挙区トップの座を保った。3位以下のダンゴ状態は続くが、社民党4.0%、共産党3.8%、公明党3.5%と、前回の順序が入れ替わった。

自民党支持で全く男女同率だが、民主党支持では男性21.5% - 女性9.0%のアンバランスが際立つ。それと表裏を成す格好で、支持政党なし層では男性29.9% - 女性42.2%の逆転ぶりがみられる。

職業層では管理職層、農林業、自営業の自民党支持が4割前後に伸び、主婦層では有職35.5% - 専業28.8%の違いがはっきり。専業では支持政党なしが46.0%の高率を示した。民主党支持は農林業、事務・技術職で2割台に乗せる健闘ぶりをみせた。

参院選の投票と争点

投票に「必ず行く」だけで7割を突破し、「たぶん行く」を加えると9割半ばに達し、小泉内閣の登場による話題性の高まりを、そっくり反映したかたちだ。

望む争点では「景気・雇用」が他を圧倒的に引き離して筆頭に挙げられ「医療・福祉」「財政・金融」が上位に並ぶ。こんごの政党再編成や政治家の姿勢なども絡み、様変わりが指摘される「政治のあり方」はあまり振るわず「憲法」「外交・安全保障」もごく低率だった。

男性が「景気・雇用」「財政・金融」などで高め、女性では「医療・福祉」「環境」「教育」などを重視する傾向がみられる。年代層では50代が「景気・雇用」で高率。「医療・福祉」では高い年代層の比率が高くなっている。

職業層ではサービス・労務系勤め人が「景気・雇用」に集中し、管理職層は「財政・金融」で突出。「医療・福祉」には農林業、無職層で高め。専業主婦は「教育」の要望の度合いが高めた。

参院選で投票したい政党・候補

比例代表で投票したい政党・候補者は、政党支持の現況に連動するかたちで、首位はやはり自民党で31.6%。2位民主党の16.5%を大きく引き離れた。以下、共産党、公明党、社民党と続く。「投票したい政党はない」は12.6%。

また、長野県区で投票したい候補の政党は自民党26.2%、民主党19.5%。現職2人公認の民主党は、比例代表での差よりは自民党に接近しているものの“劣勢”はぬぐいがたい。共産党、社民党の順で続く。その一方で「投票したい候補者はいない」「なんともいえない・わからない」とする不確定の人は、投票1カ月前の段階で、合計で4割半ばを占める。

今選挙で、自分の支持政党に加えて「議席を増やしてほしい政党」はトップが民主党で18.8%。二番手に社民党が食い込み、同率で自民党と共産党、そして自由党の順。「増えてほしい政党はない」が3割半ばにのぼる。

ちなみに、小泉内閣発足時の前回4月調査の「参院選で議席を減らしてほしい政党」では自民党、公明党、共産党が上位を占めた。

新しい「非拘束名簿式」の認知度

新たに導入される比例代表の非拘束名簿式を「知っている」が48.0%、「知らない」45.4%と、認知度はざっくり分かれた。実際の投票で「候補者」で選ぶ人が半数をわずかに超え「政党」を選ぶのは4割。候補に投票するかつての「全国区式」と、政党を選ぶ前回までの「拘束名簿式」の中間的な新制度の意味がそれなりに反映されている。

Ⅲ 単純集計

◆国政への「期待」82% 「期待せず」14%

問1 あなたは、小泉内閣の登場により、全体として国の政治に期待が持てますか		
期待している	818	81.8%
期待していない	135	13.5%
なんともいえない・わからない	47	4.7%

◆参院選の争点－「景気・雇用」突出 続く「医療・福祉」

問2 あなたは、7月29日の参院選では、なにが争点になるべきだと思いますか(2つ以内)		
景気・雇用	647	64.7%
医療・福祉	320	32.0%
財政・金融	278	27.8%
環境	179	17.9%
政治のあり方	147	14.7%
教育	124	12.4%
外交・安全保障	77	7.7%
憲法	35	3.5%
その他	4	0.4%
なんともいえない・わからない	18	1.8%

◆参院選の投票「行く」9割半ばの高率

問3 あなたは、参院選では投票に行きますか		
必ず行く	733	73.3%
たぶん行く	216	21.6%
たぶん行かない	26	2.6%
行かない	13	1.3%
なんともいえない・わからない	12	1.2%

◆比例代表の投票－自民32% 民主17%

問4 問3で「①、②投票に行く」と答えた人に—あなたは、今回の参院選の比例代表では、どの政党またはどの政党の候補者に投票したいですか		
自民党	300	31.6%
民主党	157	16.5%
共産党	43	4.5%
公明党	38	4.0%
社民党	27	2.8%
自由党	15	1.6%
保守党	-	-
その他の政党	2	0.2%
無所属	14	1.5%
投票したい政党はない	120	12.6%
わからない・答えたくない	233	24.6%

◆長野県区の投票－自民26% 民主20%

問5 問3で「①、②投票に行く」と答えた人に—あなたは、今回の参院選の長野県区では、どの政党の候補者に投票したいですか		
自民党	249	26.2%
民主党	185	19.5%
共産党	41	4.3%
社民党	26	2.7%
自由連合	3	0.3%
その他の政党	4	0.4%
無所属	7	0.7%
今のところ投票したい候補者はいない	220	23.2%
なんともいえない・わからない	214	22.6%

◆支持政党のほかに増えてほしい－民主トップ2割弱

問6 あなたは、今回の参院選では、自分が支持する政党のほかに、どの政党に議席を増やしてほしいですか		
民主党	188	18.8%
社民党	76	7.6%
自民党	55	5.5%
共産党	55	5.5%
自由党	47	4.7%
公明党	25	2.5%
保守党	13	1.3%
その他の政党	10	1.0%
増えてほしい政党はない	343	34.3%
わからない・答えたくない	188	18.8%

◆非拘束名簿式－「知っている」「知らない」相半ば

問7 あなたは、今回の参院選から比例代表選挙の投票に行われる「非拘束名簿式」を知っていますか		
おおよそ知っている	480	48.0%
どちらかといえば知らない	454	45.4%
なんともいえない・わからない	66	6.6%

◆比例代表の投票「候補」半数 「政党」4割

問8 問7で「①おおよそ知っている」と答えた人に—あなたは、比例代表選挙では政党と候補者のどちらで投票しますか		
候補者	251	52.3%
政党	194	40.4%
投票には行かない	4	0.8%
どちらともいえない	31	6.5%

◆小泉内閣支持81% 発足当初より微減

問9 あなたは、小泉内閣を支持しますか		
支持する	814	81.4%
支持しない	119	11.9%
なんともいえない・わからない	67	6.7%

◆内閣支持と自民への投票「連動する」6割突破

問10 問9で「①支持する」と答えた人に—あなたの小泉内閣に対する支持は、今回の参院選で、自民党や自民党候補者への投票にも結びつきますか		
結びつく	506	62.2%
結びつかない	229	28.1%
投票には行かない	9	1.1%
なんともいえない	70	8.6%

◆小泉内閣の評価する点—「前例にとらわれない」最上位に

問11 あなたは、小泉内閣を支持するしないにかかわらず、評価できる点があるとすれば、主にどんなことですか(2つ以内)		
前例にとらわれない姿勢	494	49.4%
”脱派閥”の姿勢	359	35.9%
政治を活性化させた	272	27.2%
改革をめざす中身	247	24.7%
首相個人の持ち味	216	21.6%
女性閣僚の起用	131	13.1%
その他	8	0.8%
特になし	36	3.6%

◆小泉内閣の評価できない点—「政策実行の遅れ」最も多く

問12 あなたは、小泉内閣を支持するしないにかかわらず、評価できない点があるとすれば、主にどんなことですか(2つ以内)		
政策実行の遅れ	301	30.1%
”国民の痛み”を伴う政策	193	19.3%
外務大臣ら閣僚の言動	185	18.5%
与党内の協調を欠く姿勢	162	16.2%
政治の混乱を招いた	127	12.7%
右寄り・タカ派的な姿勢	113	11.3%
その他	28	2.8%
特になし	234	23.4%

◆「靖国公式参拝」賛成63% 「道路財源見直し」賛成74%

問13-A 靖国神社公式参拝		
賛成	630	63.0%
反対	203	20.3%
なんともいえない・わからない	167	16.7%

問13-B 地方交付税の配分などの見直し		
賛成	692	69.2%
反対	158	15.8%
なんともいえない・わからない	150	15.0%

問13-C 郵政3事業民営化などの見直し		
賛成	675	67.5%
反対	192	19.2%
なんともいえない・わからない	133	13.3%

問13-D 道路特定財源の配分などの見直し		
賛成	740	74.0%
反対	123	12.3%
なんともいえない・わからない	137	13.7%

◆政党支持－自民31.9% 民主15.3% 無党派36.0%

問14 あなたは、どの政党を支持しますか		
自民党	319	31.9%
民主党	153	15.3%
社民党	40	4.0%
共産党	38	3.8%
公明党	35	3.5%
自由党	11	1.1%
保守党	1	0.1%
その他の政党	1	0.1%
支持する政党はない	360	36.0%
答えたくない	42	4.2%